

川崎の地名講座

地名が教える地形の歴史

川崎の地形から見た災害地名や崩壊地名

2016年2月11日

川崎市・日本地名研究所

川崎市の地形概観

多摩丘陵の先端部に位置付く川崎

上部より

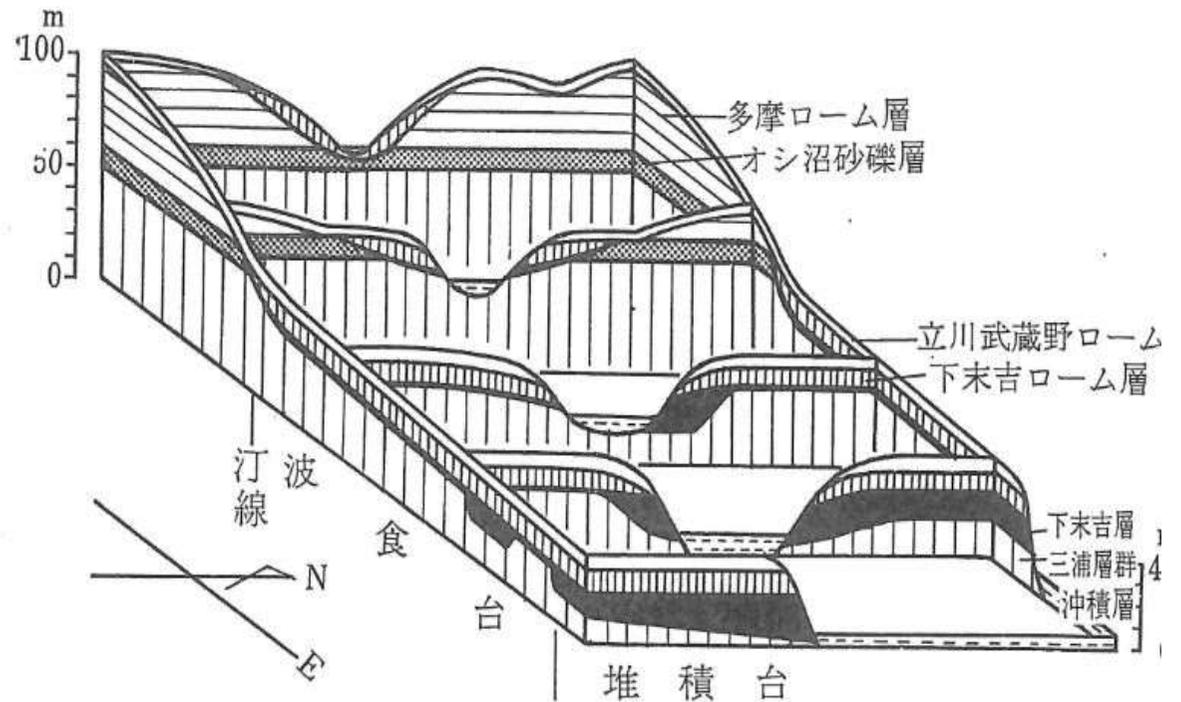
関東ローム層

古期ローム(下末吉ローム層・多摩ローム層)

上総層群(三浦層群)

- ・高津互層
- ・飯室泥岩層
- ・生田互層
- ・出店砂礫層
- ・王禅寺互層
- ・柿生泥岩層

川崎市の地形・地質



多摩丘陵東端及び下末吉台地の構造を示すパネルダイアグラム
(羽鳥・壽圓原図, 1958, 『地質学雑誌』)

川崎市の地形概観

多摩川の流路の変遷

上総層群初期

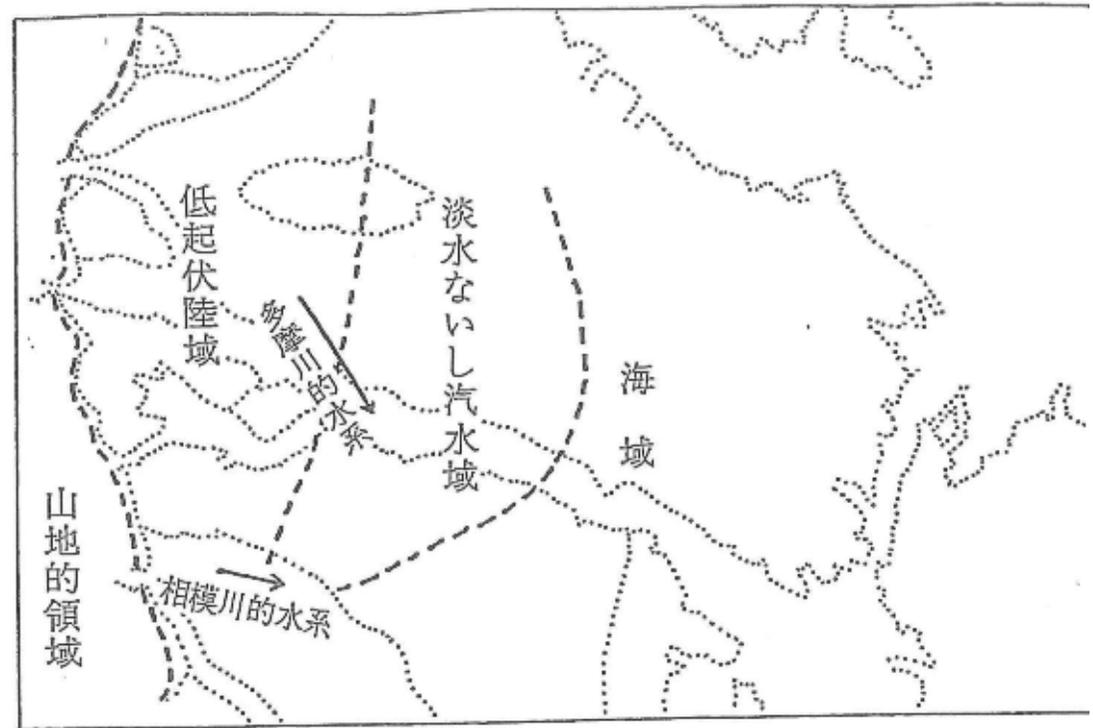
青梅の扇状地性陸地

低起伏陸域(多摩川的水系の発生)

海域の後退

オシ沼砂礫層の堆積期

下末吉海進期



b 上総層群中後期(更新世前期, 約100万年前)

川崎市の地形概観

多摩川の流路の変遷

約7万年以前には多摩川は北方を流れ、武蔵野の面を流れていた。

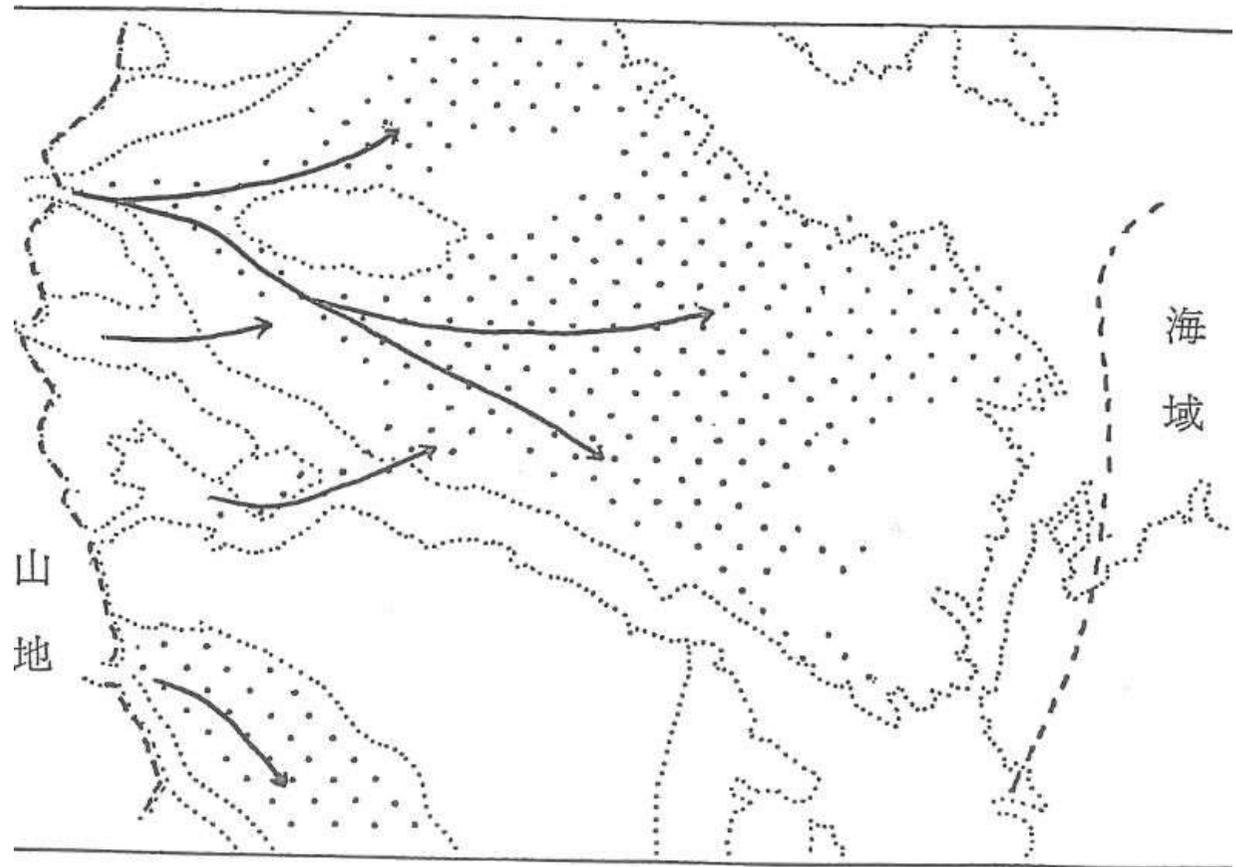
武蔵野Ⅰ面が段丘化する。

約5万年前に多摩川は南に移動し、武蔵野Ⅱ面が段丘化する。

約3万年前に国分寺崖線ができ、野川の形成が始まる。

約2万年前に立川段丘面ができる。

約1万5千年前、青柳段丘面ができる。



武蔵野期(更新世後期前半, 約7万年前)

川崎市の地形概観

多摩川の流路の変遷

約1万年前に縄文海進があり、谷戸の奥まで海であった時代があった。

多摩川は南流、北流をくりかえし、氾濫原低地を形成した。

約500年前位に、ほぼ現在のような流れになった。

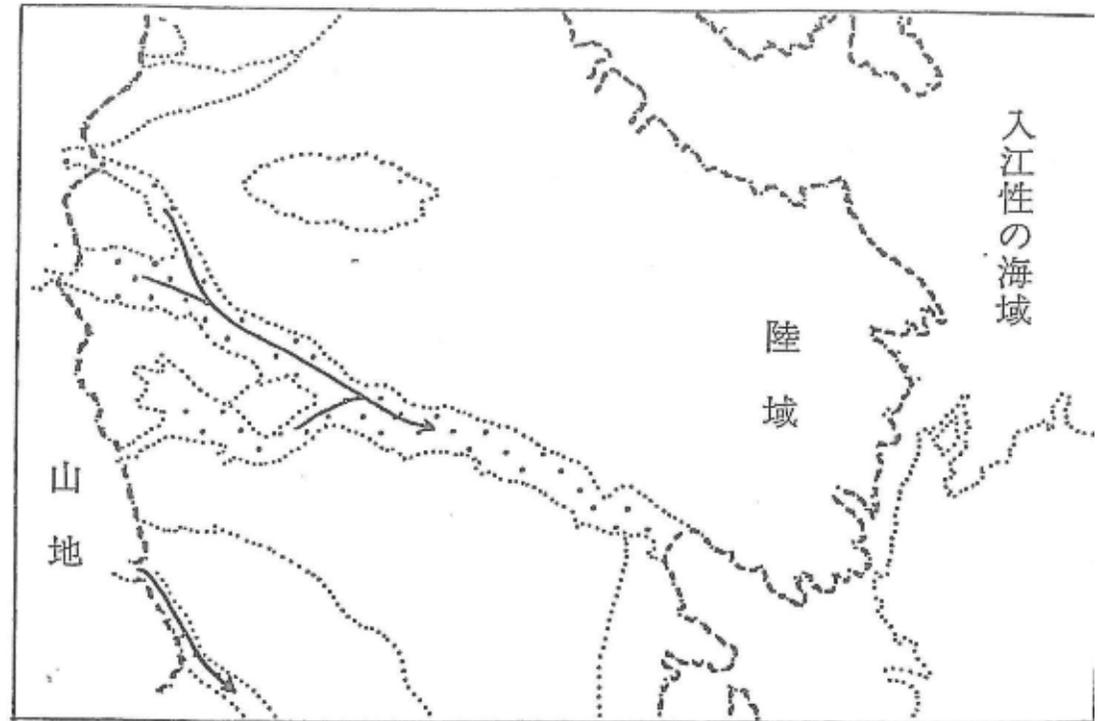


図1-11 縄文海進期(完新世初期, 約6000年前)

行政が示す災害危険地域

神奈川県資料

①砂防指定地

②地すべり防止区域

③急傾斜地崩壊危険区域

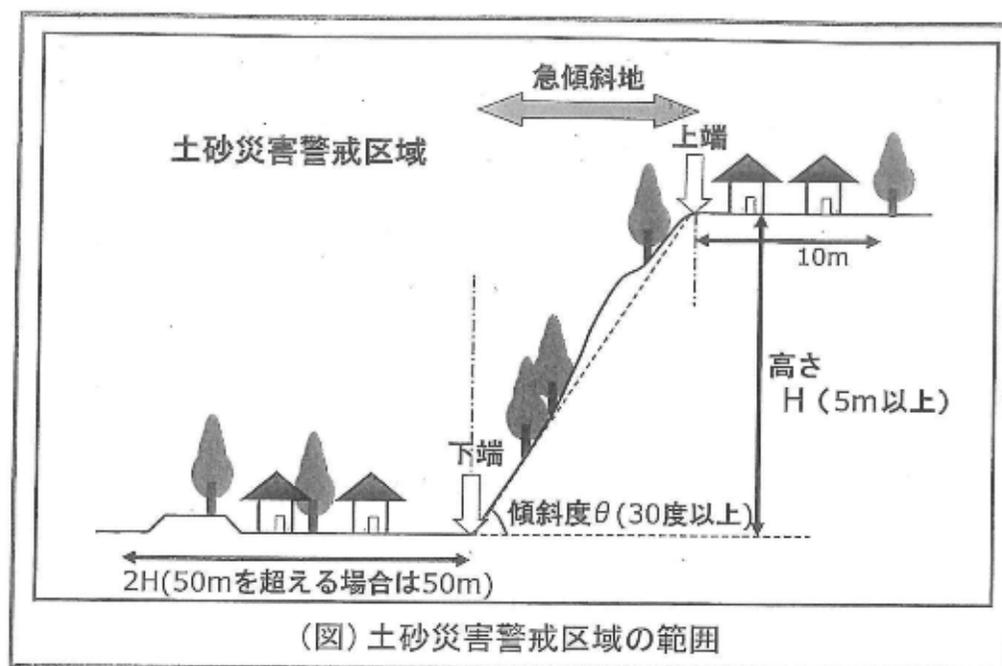
横浜市 44.88%

横須賀市 28.43%

川崎市 6.13%

土砂災害警戒区域

急傾斜地崩壊危険区域



急傾斜地崩壊危険区域

パネル形式による表示



標柱形式による表示



川崎市の過去の災害から

・昭和51年9月9日の台風19号

災害報告書より

崖崩れ

- ・多摩区(麻生区含む)74件
- ・高津区(宮前区含む)12件

鷺沼小学校崖斜面・菅薬師堂下・生田小学校附属幼稚園崖斜面・東生田飯室A・B・長沢浄水場敷地内・上麻生・下麻生・片平A・B

麻生水処理センターの埋没樹
昭和60年建設現場より出土



麻生区黒川地区・柿生地区

栗木・鳶の谷戸・片平・夏刈・竹ノ花



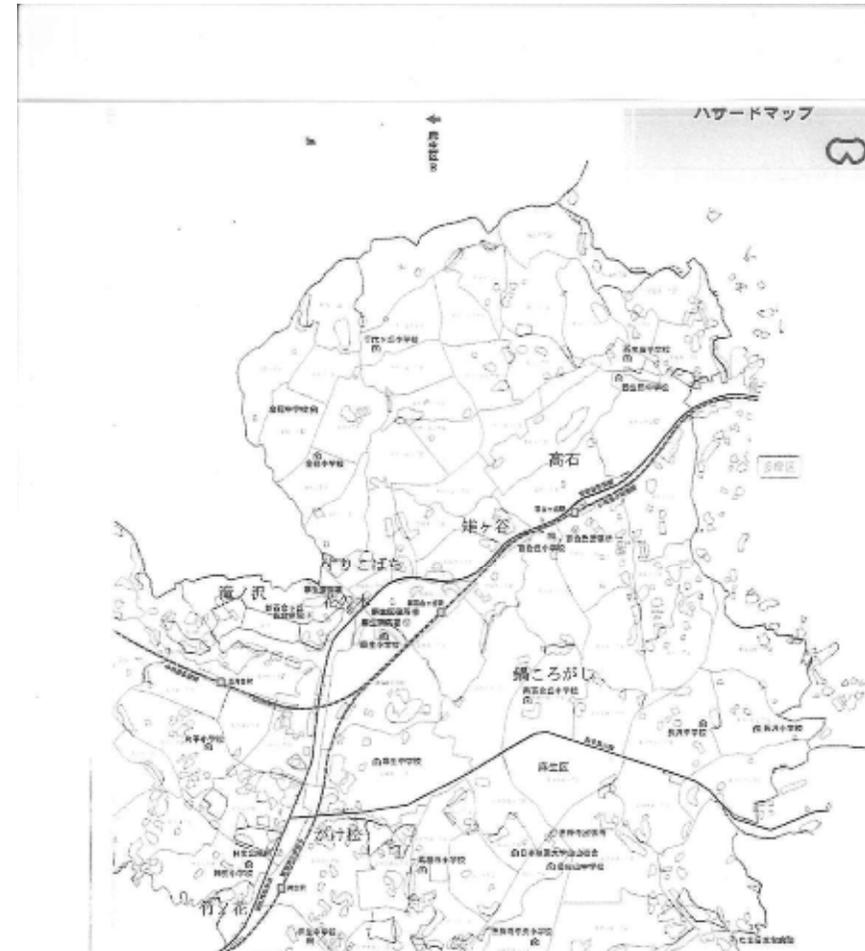
麻生区王禅寺地区

鍋ころがし・すりこばち・花の木・がけ松・花島・押切



麻生区高石地区

高石・雉ヶ谷・滝沢・水暮・烏沢



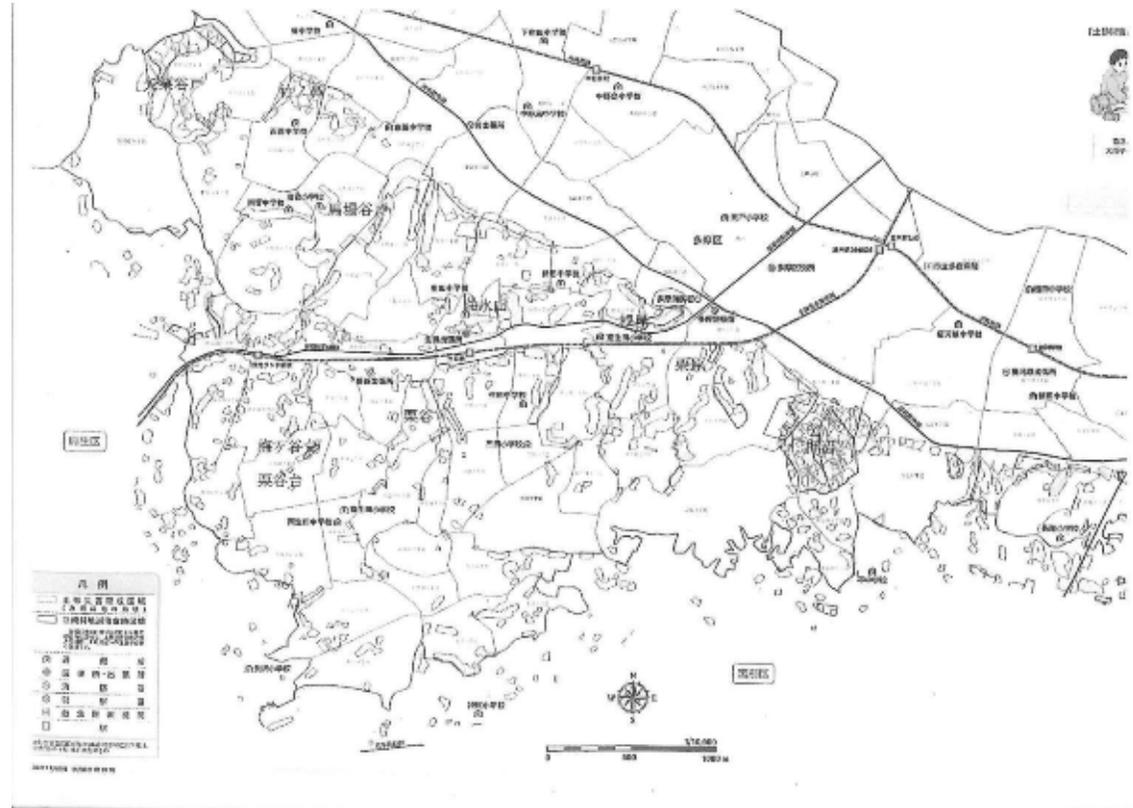
麻生区岡上地区

梨子ノ木・栗畑



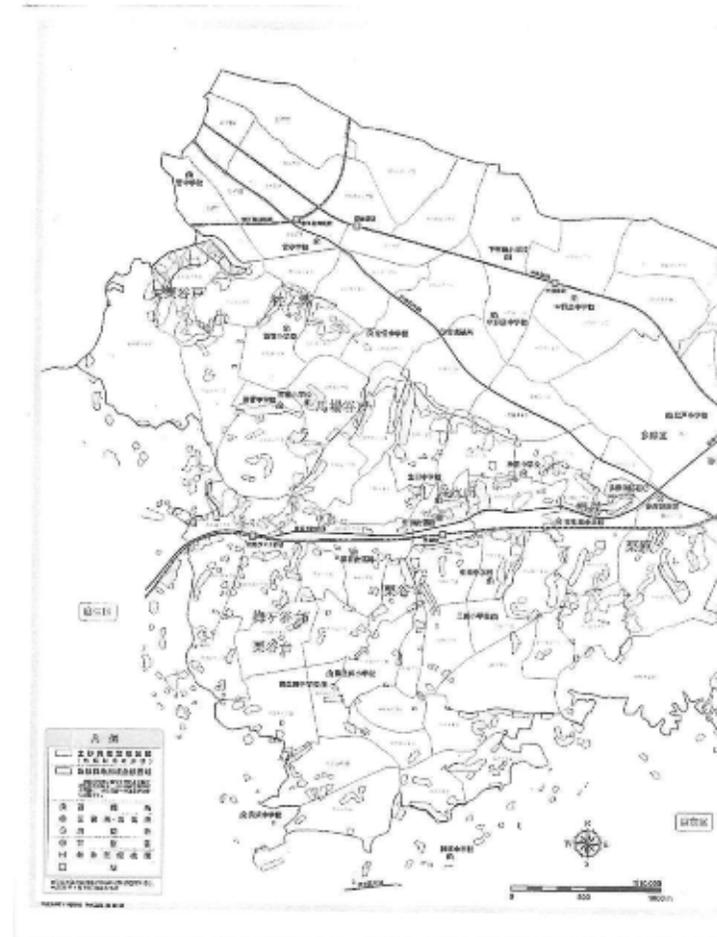
多摩区生田地区

根岸・栗谷・梅ヶ谷台・
お水山・押沼



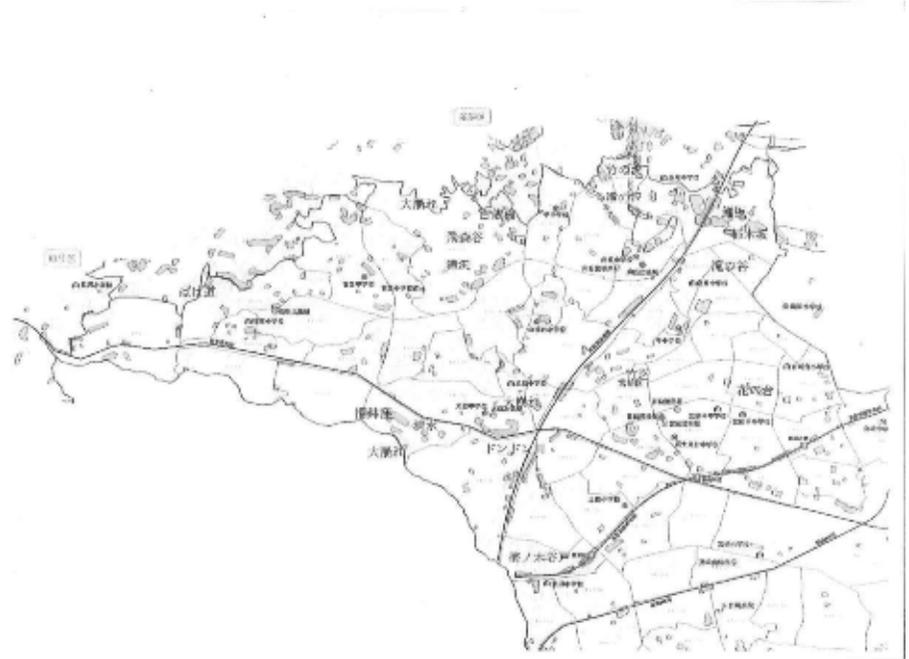
多摩区菅・中野島地区

矢栗谷戸・竹ノ鼻・馬場谷戸



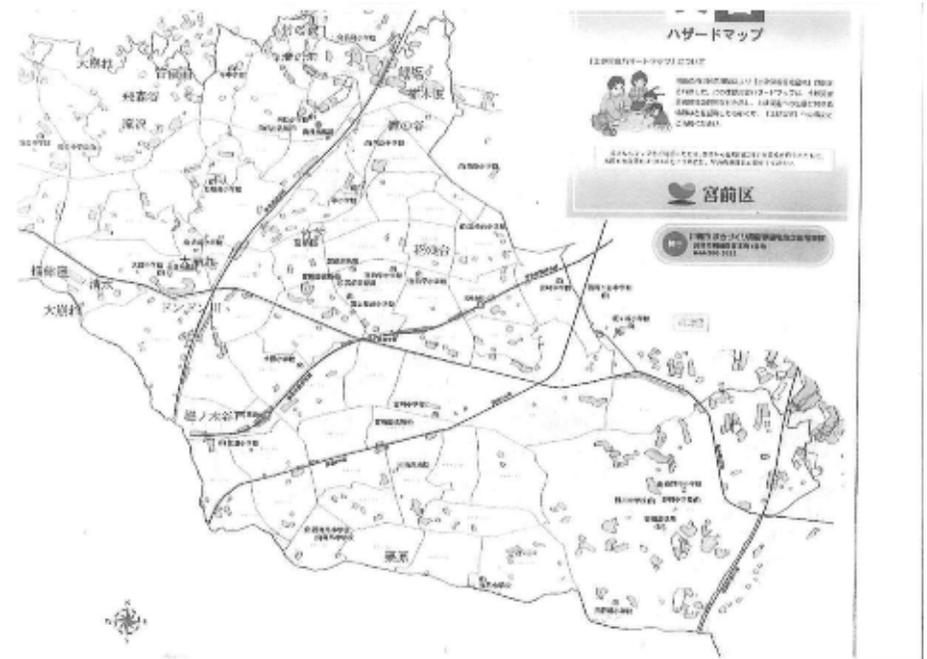
宮前区菅生・向丘地区

飛森谷戸・大崩れ・滝沢・百俵面・竹の
沢・鯉坂・ばば道



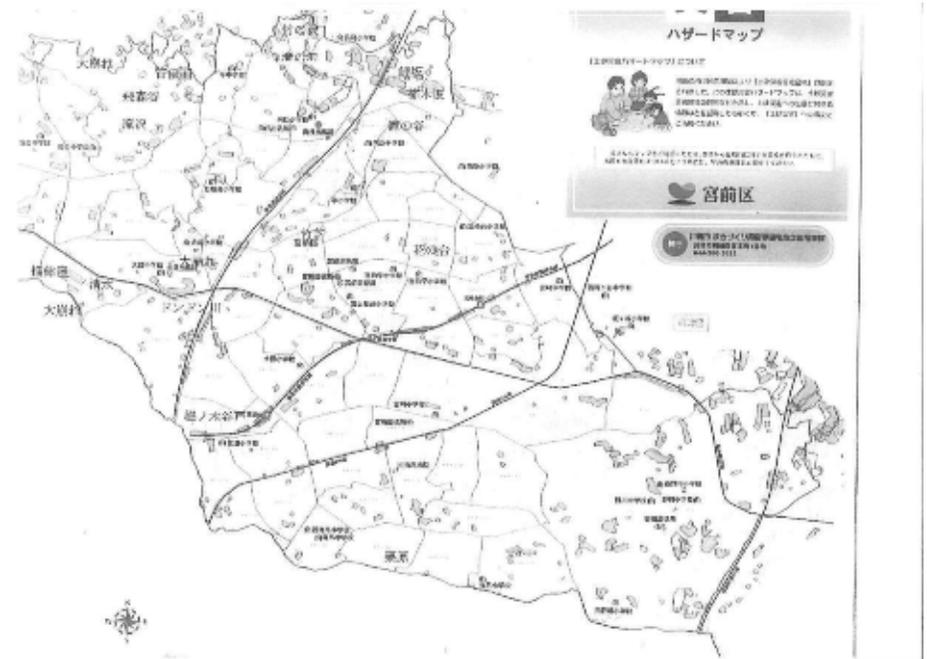
宮前区犬蔵・土橋・宮前平地区

清水・ドンドン川・大崩れ(2ヶ所)・竹
芝・花の台



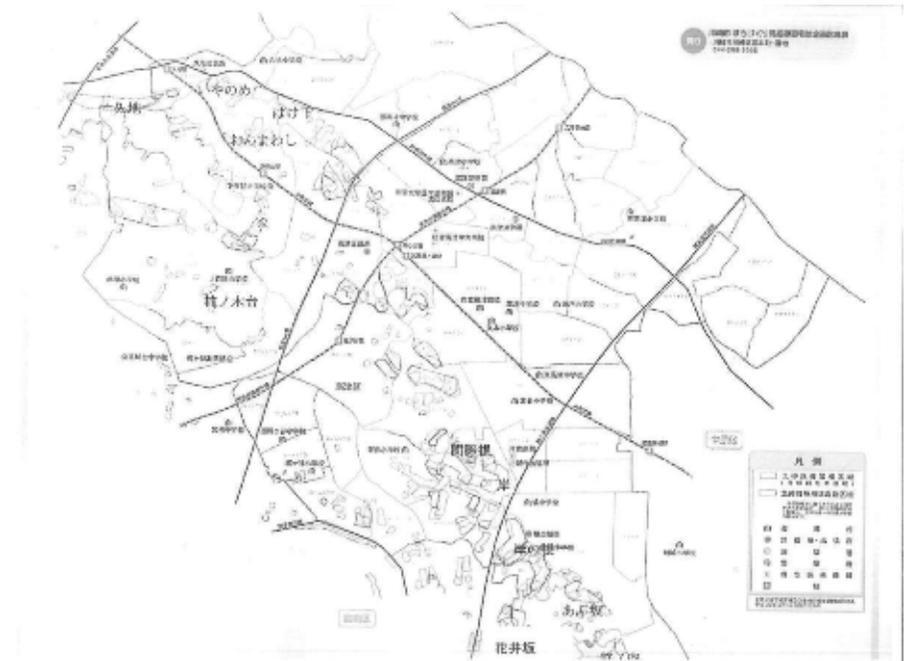
宮前区有馬・馬絹・野川地区

梅ノ木・梅ノ木谷戸・栗原



高津区久地・溝口・下作延・上作延地区

久地・はげ下・いやのめ・おんまわし・
柿ノ木台



高津区久本・末長・新作・千年・子母口地区

あぶ坂・岸・間際根・岸の根・竹ノ内・花
井坂・立花・根田



高津区久末・蟹ヶ谷地区

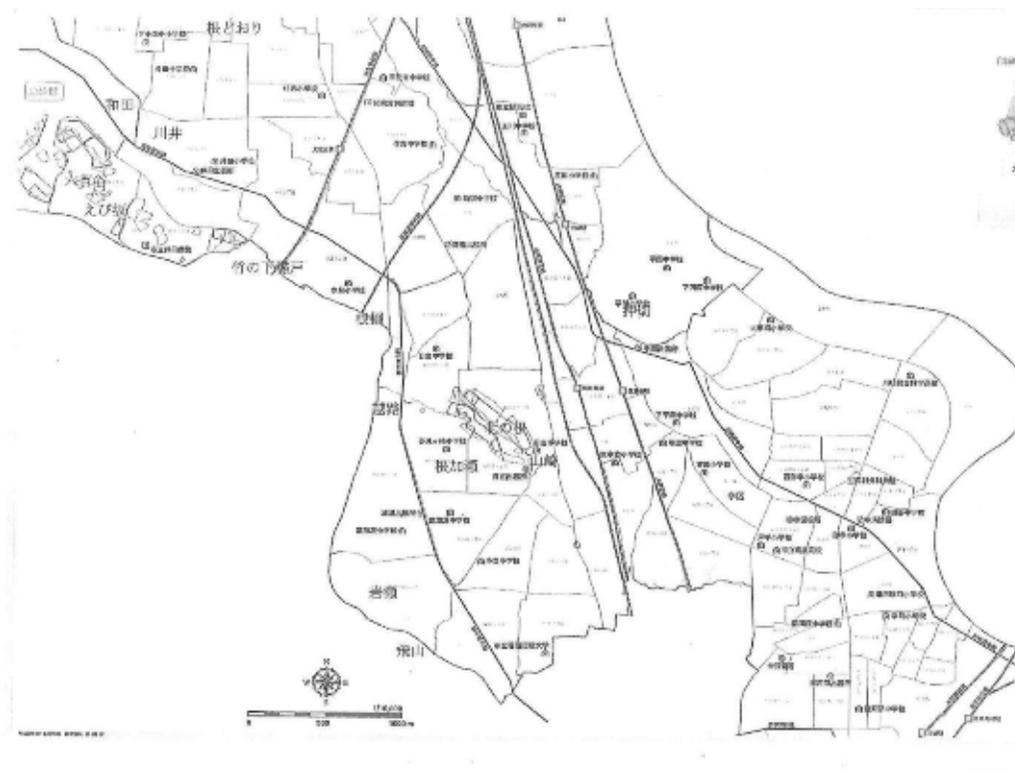
梅ヶ久保・滝ヶ谷・往古滝・はかの下・
根ぐるみ・明津



中原区井田・木月地区 幸区加瀬地区

竹の下・根ぐるみ・和田・川井・六百谷・
根どおり・押切

根加瀬・越路・岩瀬・山崎・飛山



まとめ

蟹ヶ谷 往古滝の山上から谷底を見る



飛森谷戸の上総層の上部から出る泉

